若桜町池田地区

～地域をサポートして、元気に～
（集落支援員の活動）



様々な形で地域に関わり、支援しながら地域を元気にしている女性の若桜町集落支援員3名の方に、活動内容や心がけていることなどについてお話を伺いました。

おしゃべりランチ会

池田地区の方たちと、行政関係、学校関係、公民館など町内外の関係者が交流して何かできないか、話し合いの場所を提供したいという思いがあり、2024 年5月から「おしゃべりランチ会」を実施している。参加者は、最初は20人もいなかったが、月に1度やっていくうちに、来てくださった人からの口コミで広がり、今は40人近い参加者のときもある。

集落支援員が材料の調達、献立立案を行い、住民と一緒に食事を作る。 出席されている方は女性が多い。参加者は住民や関係機関の方で、内訳はだいたい女性が6～7割程度となっており、女性が元気で活発。

当初は、手作りで季節のおいしいものを食べたら皆さんが元気になるかなと思って提案させてもらったところ、「あ、いいな」と皆さんが言ってくださった。「話し合いに来てください」と言ってもなかなか難しいけれど、「食事に来てください」と言うと、「あ、なら行こうか」みたいな感じで気軽に来てもらえるのではと感じている。

食事をした後に参加者とレクリエーションやクラシックライブ鑑賞をしたりするなど、住民と関係者が共同する取組が広がっており、年間計画を立てて実施している。

池田くらます会による地域食堂

池田地域で、「池田くらます会」という任意団体を立ち上げていただき住民主体で地域食堂を始めた。会長、副会長1名ずつと、監事2名、調理関係者のスタッフ 4 名（女性）と、事務局を集落支援員が担う形を取っている。

その調理スタッフ4名で地域食堂の食事を提供しているが、負担がかかりすぎないようローテーションで回しているところ。女性が調理中心に担当しているが、運営の中で男性と女性がお互いにフォローしあい、いい感じで協力できてきていると思う。

この地域食堂の参加者は、当初30名の枠だったが、最近は50名以上の参加希望がある状態で、定員も増やしているところ。立ち上げた2024年の10月からほぼ月に1回（第2土曜日）実施している。地区の住民は、住民が運転手をしている共助交通（地域で支え合う乗り合いの移動サービス）を活用して出てきてくださることもある。

地域食堂に来られるのは半分以上が女性。口コミなど女性のネットワークはすごい。お孫さんも来てくれたりする。参加者は高齢者が主だが、中学生などの若い人や移住された方、地区内企業で働く外国人も来られたりする。

住民同士でやりたいことが、池田くらます会の中で起こってきて盛り上がって、いろんな企画

が生まれることもある。この前の7月の地域食堂でそうめん流しをやったところ。

地域食堂もランチ会も、やっていくと住民の中で女性のリーダーみたいな人は当然出てくる。例えば、「あの人に言ったらみんなに伝わる」とか、「頼み事したら乗ってくれる」とか。

集落訪問や茶話会

定期的に行うことになっている集落訪問には力を入れていて、中には会えてない方もいるが、最初に全家庭を回らせていただいた。そこでお話や困りごとを聞いたりして、少しでも、お役に立てればと、相手にお伺いをたてつつ、必要に応じて役場との橋渡しもしている。

なかなか公民館（池田地区分館）まで来られない方も多いので、なるべく集落を訪問して、自分も知ってもらえるように心がけているほか、出向いて集落でゲームやおしゃべりを楽しむ茶話会というのを企画している。自分が住んでいる集落の公民館なら歩いて行けるからということで、来てくださる方もおられる。

心がけていること

巡回していると少しずつ集落の特徴が見えてきて、あの人がいたら伝わるし、集落のことはあの人に聞いたらわかるというのがわかってきて、今はそういう人を中心に聞き取りして、困りごと、やりたいことをお聞きするなどして、把握するよう心がけている。

集落ごとの特性と住んでおられる人をまず把握して、信頼関係を築いてきており、安心してもらえるような関係性を作ることに時間をかけている。

自治会について

若桜町の自治会は大概男性が多いが、公民館事業に女性が来られ始めているところもでてきており、それは、自治会のことをする人が少なくなり、女性がしないといけない事情のところもあるようだ。結果として、公民館に今まで男性ばっかりだったけど女性が入りだして、「女性の意見が出るからいいね」と言われる人もおられる。

今後の活動

池田くらます会では、今年4月から地域食堂に来ることが難しい方々のために、お弁当の配食サービスも始めた。住民が主体となった企画や動きも見られ、少しずつ元気が出てきているように思う。ただ、今後もこれらの活動を継続するために集落支援員だけではない、例えば地域食堂をきっかけとして、地区を訪れる大学生などの「関係人口」ともつながりを深め、さまざまな人に関わってもらいながら、地域の活動を盛り上げていけたらと思っている。